日本医師会

赤ひげ大賞

地域で献身的な医療活動を行う医師を顕彰する第15回「日本医師会　赤ひげ大賞」（主催・日本医師会、産経新聞社）の受賞者選考がまもなく始まる。近年は診療にとどまらず、予防のための啓発に尽力する医師など、受賞者の幅も広がっている。今年で選考委員10年目となる俳優の檀ふみさんと、特別協賛する太陽生命の田村泰朗社長に、地域に寄り添うことや予防の重要性のほか、社会保障の意義、課題などについて語ってもらった。

治療から予防へ　広がる地域医療

俳優 檀ふみさん × 太陽生命保険 田村泰朗社長

だん・ふみ　慶応大経済学部経済学科卒。高校在学中に俳優デビューし、NHKドラマスペシャル「日本の面影」の小泉セツ役などで高い評価を受ける。エッセーも好評で、多くの著書がある。父は作家の檀一雄氏。東京都出身。

たむら・やすろう　東京大文学部哲学科卒。昭和62年、太陽生命保険入社。四日市支社長、執行役員企画部長、取締役常務執行役員、代表取締役専務執行役員などを経て、昨年４月から現職。大阪府出身。

ドラマのような人生

今年も「赤ひげ大賞」の選考が始まります。檀さんは選考委員10年目ですが、受賞者像の変化など、感じることはありますか

檀　最初のころは、長年、地域医療に医師人生をささげてきた方が多かったですが、最近は新たな機器などを活用し、より広く、大勢の健康に貢献するような若い方も選ばれるようになってきました。私自身は、長年の貢献はもちろんですが、「この先生を小説にしたら面白そう」というような方を推してしまうようなこともあります。

田村　人生をドラマ化したらよさそうなということですね。

檀　そういう方が多いんですよ。でも、最近は自分の中で、昼夜問わず患者さんに尽くされてきた方や、「これって医師の仕事？」というような、医療以外も含めて地域コミュニティーの構築に貢献された方、テクノロジーを使って物理的な負担を減らし、地域医療を持続させようと努力している方…といったいろいろな観点から判断しています。

田村社長も毎年、選考委員をこちらになっていますね

田村　現在、選考委員になっている若い医学生の方々が、檀さんがおっしゃったような先生方に対し、「自分の目指すべき医師の姿を見たような気がします」といったコメントをされていたのが印象に残っています。治療や看取りだけでなく、予防や見守りなどを行う先生もいらっしゃって、「あの先生がいるから私たちも安心できる」と、地域に安心を提供されている存在なのだと気づかされます。

檀　私も「こんなにすばらしい先生方がこれだけいらっしゃるなんて、日本も捨てたものではない」と毎回、感動しています。

生命保険も予防に力

予防に尽力する先生のお話が出ましたが、生命保険も予防に力を入れるようになってきているそうですね

田村　生命保険会社の役割は、社会保障制度を補完することですが、例えば、高齢化で増えている認知症などは公的な社会保障ではなかなかカバーしきれません。弊社は10年前に業界に先駆けて認知症の治療保険を発売したのですが、現在は認知症になってしまったときの保障はもちろん、認知症の前段階で予防できるよう、軽度認知障害（ＭＣＩ）のリスク確認の検査に使える「予防給付金」を付加できる保険商品もつくっています。また、がんなどでも予防にお金を使っていただける保険商品もあり、「治療」から「予防」へ、時代に合わせ、お客さまに寄り添えるよう取り組んでいます。

檀　本来は社会保障制度で全てカバーできればいいのでしょうが、そうでない以上、補完していただくことはとても重要ですね。それと同時に、生命保険会社さんには、予防などの啓発にも、より力を入れていただきたいと思います。赤ひげ大賞に推薦される先生方も、「治療から予防へ」という方がたくさんいて、熱心にやってらっしゃいますね。

檀さんは毎回、選考会の前はかなり悩まれるそうですね

檀　選考資料をじっくり読んで考えるため、選考会の前々日と前日は睡眠不足になります。今年で10年目ですが、最初の年は、１人目の候補者の資料を読んで、その先生に点数をつけ、それを基準に、以降の先生の点数を付けていこうと思って臨みました。ところが、最初の先生にほぼ満点が付いてしまい、「これ以上、すばらしい先生は出てこないだろう」と思って別の先生方の資料を読み始めたら、みなさんが同じようにすばらしいのです。全部読み終わって途方に暮れました。最近は、同じような功績の方など年数が長い方とか、自分の中で判断基準ができてきましたが、難しいですね。

田村　選考会を拝見していて、どの先生の功績もすばらしく、本当に甲乙つけ難いですね。

檀　以前は推薦書を読んで選考する形でしたが、最近は各候補者に同じ人がインタビューして作成したストーリーも選考資料に加わるようになりました。それを読むと引き込まれ、表彰式でお会いするのが楽しみになるんです。

「地域に安心」志を同じく

田村社長は、選考会でのあいさつの際、「赤ひげ大賞と太陽生命は志を同じくします」と話されていましたね

田村　先ほども申し上げましたが、赤ひげ大賞に推薦されるような先生方は、単にお医者さんと患者さんという関係を超えたご尽力で、地域に安心を提供されています。太陽生命は、地域の「家庭を一軒一軒訪問して保険をご案内するのが特徴ですが、それぞれのご家庭は家族構成だけでなく、抱えていらっしゃる不安も異なります。だからこそ、ご家庭の状況に合わせた保障をご提案し、いざというときに「入っていてよかった」と思っていただくのが役割と考えています。地域の方々に安心をご提供するという意味で「志を同じくする」と強く感じます。弊社にとって非常に親和性のある賞を応援させていただくことができ、光栄に思っています。

医学生を含めた若い世代へのメッセージや、赤ひげ大賞の今後に望むことがあればお願いします

田村　医学生の選考委員の方々のコメントが印象に残ったと話しましたが、そういった方が地域に根ざして、住民に安心を与え、生活を支えていくような医師を目指していただけるとうれしいです。地域医療への熱意と使命感を持って取り組んでいただければ、大変うれしく思います。

檀　この賞が30年、40年、50年と続いて、選考委員を務めた医学生の中から、将来、受賞者が出るようになればすばらしいですね。そして、長く続けることで、赤ひげ大賞が一般の人たちにも浸透し、「あの先生、赤ひげ大賞を受賞されたんですって」といったら、みんなが「すごい」と感嘆するような…そういうふうになっていってほしいと思います。

住民に「安心」提供する大切さ

甲乙つけ難く選考に毎回苦労

書家・金澤翔子さんの作品とともに
＝東京都中央区の太陽生命本社（成田隼撮影）

「日本医師会　赤ひげ大賞」

地域に密着して人々の健康を支える医師の功績をたたえ、広く国民に伝えるとともに、次代の日本を支える地域医療の大切さをアピールする事業として、日本医師会と産経新聞社が共同で平成24年に創設した。全国の都道府県医師会の推薦を受け、病を診るだけなく地域に根付き、かかりつけ医として生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努める医師の中から毎年５人を大賞に選んで表彰する。第８回からは功労賞も設け、第11回からは選考委員に医学生のグループも加わって選考が行われている。

江戸時代の小石川養生所を舞台に、「赤ひげ」と呼ばれる所長と青年医師との心の交流を描いた山本周五郎の時代小説『赤ひげ診療譚』にあやかって名付けられた。

人生100歳時代。
元気に長生きしながら、自分らしく生きていく。
それは誰もが望む理想の未来。
太陽生命の保険組曲Best MYWAYは、
そんなひとりひとりの生き方を応援していきます。
あなたの人生という道に、もっともっと寄り添えるように。
太陽生命の新たな挑戦の道のりもまた、
ここから始まります。

あなたの人生にベストな安心を。
太陽生命の保険組曲Bestに
新シリーズ、登場。

保険組曲 Best MY WAY

元気！長生き！
太陽生命
資料請求は 0120-264-333 資料のご請求は自動音声で24時間受付しております。
太陽生命
挑戦、その先へ。
T&D保険グループ